

イチジク新規就農講座「いちじくスクール」 開校3年目、初の本格収穫！

8月16日から11月にかけて、露地イチジク専門新規就農者講座「いちじくスクール」では収穫実習を行います。

「いちじくスクール」は、JA西三河と愛知県農業改良普及課・西尾市・JAあいち経済連などが協力して開く、露地イチジク専門の新規就農者向け栽培講座。平成27年4月に開校し、同時に26区の実習圃場へイチジク苗木を植え付けました。植え付けから3年目を迎える今年度は、イチジクの苗木がほぼ成木となって迎える初めての収穫。受講生らは講師の説明を受けながら、立派に実ったたくさんのイチジクを収穫します。

西尾市はイチジク産地。西尾市内では48人のイチジク農家が露地・ハウスでイチジクを生産し、主に中京・関東方面へ出荷しています。

■いちじく収穫 取材対応日■

【日時】8月18日（金） 午前6時45分集合
（雨天決行）

【集合】JA西三河 小牧センター
（西尾市吉良町小牧梶見堂3）

【いちじくスクール 実習圃場】
西尾市吉良町瀬戸名山8,9番地

※集合後、収穫を行っているいちじくスクール実習圃場へご案内します。その後にお越しいただく場合には、圃場へ直接お越しください。収穫作業は概ね7時30分ごろまで行っています。

※取材される報道機関の方は、JA西三河園芸販売課（連絡先下記）までご連絡ください。

※雨天決行の予定となっておりますが、極度の天候不順の場合には収穫を行わない場合があります。その場合には、事前に取材のご連絡を頂いていた報道機関の方にはこちらからご連絡いたします。



収穫実習の様子（8月）



出荷されるイチジク

西尾市のイチジク生産の概要

～新規就農者ぞくぞく参入～

■西三河地区は日本一のイチジク産地！

全国で約12,000トﾝが生産されているイチジク。愛知県は生産量2,479トﾝを誇る日本一のイチジク産地です。中でも西尾市などの西三河地区は、生産の中心地となっています。

昭和40年代より、水田の転作作物としてイチジク栽培が本格化。西尾市のイチジク生産者で組織する「JA西三河いちじく部会」は、JAあいち中央・JAあいち豊田・JAあいち三河のイチジク生産部会とともに組織する「西三河いちじく部会」の一員として、全国一のブランドを確立。あわせて988トﾝ（平成26年）のイチジクを生産しています。

■産地を支える「いちじくスクール」

イチジクは果樹としては珍しく、苗木の植付から2年で収穫でき、3年目には成木並みの収量を得られます。また脚立に上った作業が不要であること、果実が軽量で作業負担が軽いことなどから、新規就農者にも取り組みやすい作物です。

この性質を活かして新規就農者を取り込み、産地の維持拡大につなげようと、平成27年4月、JA西三河とJAあいち経済連は協力して、イチジク専門の新規就農者向け栽培講座「いちじくスクール」を開校しました。受講生は1年をかけてイチジク栽培の知識と技術を学びます。イチジク専門の新規就農者向け講座は珍しく、西尾市外からも受講生が集まっています。

現在は第3期生が受講中。これまでに38人が受講し、1期・2期生30人のうち8人が西尾市内外にてイチジクで就農しています。生産者数の維持に加え、若く意欲的な生産者の取り込みを通じて規模と生産量を伸ばしています。



いちじくスクールでの
イチジク苗木の植え付け（4月）
誘引作業実習（6月）
収穫実習（8月）

【産地情報】

生産者部会の名称：JA西三河いちじく部会
部会員数：48人
耕作面積：約6.9畝
生産量：157トﾝ（ハウス44トﾝ・露地113トﾝ）
出荷時期：（ハウス）3月下旬～8月上旬
（露地）7月下旬～11月上旬
販売額：1億2000万円（露地・ハウス合計）
出荷先：主に中京市場・京浜市場
出荷品種：「柘井ドーフィン」
流通：「西三河いちじく部会」を通し、4JA共販で京浜地域（60%）・中京地域（25%）・北陸地域（15%）へ出荷

全国の出荷量：12,411トﾝ
愛知県の出荷量2,479トﾝ（全国1位）
（2位和歌山県：2,207トﾝ、3位兵庫県1,413トﾝ）
西三河いちじく部会の生産量：988トﾝ

データ参照：
農林水産省 平成26年産特産果樹生産動態等調査
（<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001173724>）
愛知県西三河農林水産事務所による作成資料